



英語でスピーチする澤田団長

ヘンダーソンビル市を公式訪問 II 感激の日々 II

都留・ヘンダーソンビル 友好委員会 会長 澤田 洋一

今回の訪問は、小林市長を始め各界の方々総勢十六名で編成され、それぞれが使命感に満ちての訪問となりました。

空港では、ベッツィー・ウエドキンド友好委員会会長をはじめ、アウスブルック元市長ほか多数の方々の出迎えを受け、大変感激しました。

到着後、すぐホテルに向

かい両市の幹部が、滞在中の計画について詳細な打ち合わせを行い、歓迎会、友好委員会代表者会議（サミット）、さよならパーティーなどの公式行事は滞りなく終了することができました。

特にサミットは、前進的な雰囲気の中で進められ、これまでの両市の交流総括と今後の訪問計画、高校交流のプログラム、ちびっこ使節団、姉妹都市提携二十周年記念フェスティバル、記念誌発行など多くの議案を討議しました。さらには、谷村工業高校の新規交流への対応などが検討され、全ての

議題が前向きに進められることになりました。

その日の夜、われわれは変わったディナーに招待されました。それは、プログレスディナーと称し、三軒の家庭を巡回して食事をとる企画でした。最初は、サラダコース、二軒目はメインコース、最後はデザートコースとバラエティーにとんだディナーをホストファミリーとともに楽しみました。

さよならパーティーでは、都留市にゆかりの深い方々が揃い、楽しいひとときを過ごすことができました。

お別れの日、早朝六時の出発にもかかわらず、多数の方々に見送られそれぞれが別れを惜しみ、涙をこらえてヘンダーソンビル市をあとにしました。

これらの友好関係は、両市にとって目に見えない、かけがえのない心の糧であり、また、両市民の新しい芽生えであると信じます。

最後に、われわれ訪問団が大任を果たすことができたのは、各方面の方々の深いご理解とご協力があったからこそと、ここに感謝の意を表し、結びといたします。

そのほか、都留市文化使節団が、日米親善合同演奏会をヘンダーソンビル市で開催したり、谷村第一小学校がヘンダーソンビル市の小学校と手紙の交換を計画しているなど、様々な交流が盛んに行われています。

来年の三月には、桂高校がヘンダーソンビル市へ短期留學生を派遣します。

平成二年に姉妹校を提携してから、ちょうど十周年という節目の年にあたり、先方のスタッフも今

これからの交流

今回の訪問中に開催された両市の代表者による会議（サミット II）上の写真）では、今までの交流はどの分野でも同様に続けていくことを確認し合いました。

この事業が盛大に行われるよう、両友好委員会が協力しあうことを約束し、予定時間を大幅に超えてのサミットを終了しました。



両市の代表者によるサミット



テネシー州会議事堂視察

からお祝いのイベントを考えているようです。また、屋内の授業だけでなく外（アウトドア）での授業も考えているとのこと、回を重ねるごとに新しい要素が組み込まれ、生徒も楽しい留学生活が送れることでしょう。

また、平成十四年には青年会議所主催による「第四回ちびっこ海外使節団」派遣も正式に決定し、ヘンダーソンビル市側の受け入れに対する寛大な心に、改めて感謝の気持ちを表したいと思えます。

子どもたちにとっては、またとないすばらしい経験になりますので、多くの「ちびっこ」に参加してもらいたいものです。

さらに、新しい試みとして谷村工業高校がヘンダーソンビル市の二校と交流を持ちたい意向を伝えたところ、快く了承していただきました。この事業が実現すれば、工業高校としての特色ある交流が図れるのではないかと、今から楽しみです。

最後に、サミットの重要案件でありました、平成十五年に迎える姉妹都市提携二十周年の記念事業についての協議が行われました。

日程は、調印日の五月十八日（日）を中心に、その前後を第一に考えることで一致し、記念誌作りについては、基本的にはヘンダーソンビル市側で製作することになりました。

驚かされた街並みと風景



今回の訪問で私たちが一樣に感心し、ため息をついたのが整然とした街並みと美しい自然でした。

オールドヒッコリー湖を囲むように、そのままの地形を生かして建てられている住宅が、紅葉した木々と見事にマッチした美しい風景が印象的でした。

きっと、この地では環境汚染などという言葉は存在しないのでしょう。

